

秩父市 本町・中町まちづくり通信

秩父市中央通線本町・中町まちづくり推進協議会報告

発行・編集

秩父市地域整備部まちづくり課

TEL 0494(25)5217

FAX 0494(25)0137

第10号 平成20年3月

福島県会津若松市七日町通り視察（2月28日）

平成20年2月28日（木）秩父市まちづくり推進協議会のメンバーで福島県会津若松市七日町通りに視察に行ってきました。

当日は、七日町通りまちなみ協議会の副会長である庄司裕氏に事業の概要について、ご説明いただくとともに、実際にまちを歩きながらの熱心なご説明を賜りました。



事業の概要説明及びまち歩きの様子

■七日町通りまちなみ協議会副会長 庄司 裕氏の説明（骨子）

【場所】会津若松市七日町通り「会津ブランド館」

- ・今までの商店街活動では、存続が難しい。何とかできないかと数人で行動を起こした。
- ・H5年夏、まちを調査してみると明治以降のものとはいえ、歴史的な建物が数多く残っていた。これらの建物を活かして、城下町らしい特色ある商店街の復興と地域コミュニティの再構築を目的に発起人23名によって、七日町通りまちなみ協議会が発足した。
- ・修景を行ったところ、考えても見ないことが起きた。それは、観光客の入込である。
- ・15年前は、通学途中の高校生以外、歩く人がほとんどいなかった七日町通りであったが、今では多くの旅行者が散策する光景が毎日のように見られるようになった。
- ・H4年に会津若松市景観条例が制定されており、それに則して景観協定を住民でつくって、市の認定を受けた。修景に当たっては、市から補助金を受けることができた。これが、事業がうまくいった一因かも知れない。
- ・機運の高まりにより、まちなみ協議会の青年部会、女性部会が発足し、役割分担をして、事業を推進している。これもこの事業の成功の大きな要因であると思う。
- ・全国どこの地方商店街でも空き店舗が増加しているような状況であるが、七日町では逆に空き店舗が減少している。空き店舗に入居する事業者に対する家賃補助である県の空き店舗対策の補助金をほとんど七日町通りで使っているような状況である。（他の商店街では、空き店舗に入居しようとする人があまりいない。）
- ・七日町のまちなみの修景は始まったばかり、進捗はまだ、20～30%といったところ。これからも事業を進めて行きたい。
- ・七日町通りは歩道が狭くまち歩きするのに危ないので、将来的な取組として、一方通行にして歩道を広くしたいと考え、県に要望しているが迂回路等の関係で中々実現しない状況である。また、電線地中化については、今後5年間を目途に完成する予定である。

裏ページに続きます

七日町通りの街並み



七日町通りの街並み。庄司氏のご説明のとおり、歩道が狭い箇所があり、電柱も目立ちました。



道路事業により移転となる蔵は曳き家していました。



チェーン店も歴史的な街並みに配慮していました。



ブロック塀には、板を張って、街並み景観に配慮。



J R 七日町駅。ボンネットバスが雰囲気を醸す。

【まとめ】

今回の七日町通りの視察を通じて、地元の方々の主体的な取組と事業へのご理解、街並み景観に対する気遣いがまちの活性化には、必要不可欠であると改めて感じました。

3月21日（金）には、ここ七日町通りまちなみ協議会の会長である渋川恵男氏をアドバイザーとしてお招きして、第3回本町・中町合同まちづくり座談会を開催します。今まで、まちづくり座談会に参加されていない方も、気軽にご参加いただき、自由なご意見をお願いいたします。

まちづくりは地元の皆様が主役です!!

まちの活性化を目指し、みんなで検討し、まちづくりを進めていきましょう。